

今学期の頑張りに胸を張ろう！！

校長 松本 雅史

いよいよ明日から冬休みが始まります。今年の冬休みは、1月10日までです。17日間というこれまでにない長い冬休みになります。

そして、今日は担任の先生から「あゆみ」をいただきます。2学期の皆さんの頑張りの全てをこの「あゆみ」が表しているわけでは勿論ありません。ですが、先生たちから見て、「ここを頑張ったね」「次はここに力を入れて欲しい」という思いが、この「あゆみ」には込められています。

私も、8年前までは担任の先生をしていました。勿論、毎年、毎学期「あゆみ」を作成して一人一人に手渡しました。その時に、こんなことがありました。

ある子が、帰りの挨拶が終わった後に私のところに来てこう言いました。

「今学期、私は算数の『考え方』を「B」から「A」に上げたいなと思って頑張りました。テストの右側はだいたいできていたと思うのだけれど、やっぱり「B」でした。「A」にするには、3学期はどんなことを頑張ったらいいですか。」

私は、テストはできていましたね。テストのために復習も頑張ったのですね。というと、その子はうなずきました。その子には「どの学習もとてもよく身に付いています。身に付いているが「B」です。ぜひ来学期は、問題が解き終わっても別のやり方はないかななどと更に深く追究して学びを深めていって欲しいと思います。」と話しました。「別のやり方はないかな」「もっといい方法はないかな」と深く考えることは、普段の授業でも私はとても大切にしていました。この子は、そこが自分はまだまだだったのだと納得したようでした。「3学期も頑張ります」といって笑顔で帰って行きました。

3学期になり、「別のやり方はないかな」「もっといい方法はないかな」と深く考えることについて、私は授業の中でさらに力を入れていきました。この子も一つの問題に対して、何ページもノートを使ってさまざまな解決方法を夢中になって考え、発言もより積極的になりました。3学期は、クラスの模範として「A」の成績を自らの努力で勝ち取りました。

「あゆみ」をいただいたときに、「B」や「A」の数が、いくつからいくつに増えたとか減ったとかで、成績が上がったとか下がったという言葉を目にするときがあります。果たしてそうでしょうか。仮に「A」の数が減ったとしても、前の学期の自分と今の自分とを比べてみて、成長していないはずはありません。できるようになったこと、新しく知ったことは山ほどあるはずですよ。どの子もみんな伸びています。「あゆみ」を通して今学期を振り返ったときに、「B」「A」の数がどうだったかということ以上に、「自分は精一杯やれただろうか」と自分自身を振り返ってみましょう。そして、「こんなにも自分は頑張ったじゃないか」と胸を張りましょう。

今朝、ある教室の黒板にこんな担任の先生からのメッセージが書いてありました。一部言葉を換えて紹介します。

「この学年が終わるまであと50日。それまでにどう過ごすかは、明確な目標を持った人が大きく成長します。どんな自分になって次の学年にいきたいか、次の学年までにどんなクラスにしたいか。ぜひ冬休みに考えておこう。」

次に皆さんが学校に登校するときは、もう新しい年ですね。「今年はこれを頑張るぞ!」「こういう年にしていこうぞ」と、一人一人が決意みなぎる姿で会いましょう。

風邪をひかないように、健康に気をつけて、いい年を迎えましょう。